

## 今、松戸の学校・教育は？

お話：村越規雄先生

### 1. 市場主義と管理強化の中で

今、憲法・教育基本法を変えて、戦争できる国に変えようとする動きが着々と進んでいますが、そのことを一番の根底として、学校の中にもさまざまな政策が矢継ぎ早に入ってきています。そうした動きというのは大きく言うと二つの流れがあると感じます。一つは市場主義、教育を金儲けの道具にする、自由という名を借りて競争をあおり、格差を広げていくという流れ。もう一つは管理強化。日の丸・君が代の強制という問題が代表的にありますが、いろいろな制度を入れて教師をがんじがらめにして、自由な実践をできなくさせていく、そういうシステムを入れようとしています。この二つの流れの中で、今学校がどんどん病んだ状態にさせられてきているように思います。

#### (1) 競争に追い立て、行政は責任放棄（松戸版教育改革）

松戸に現れている松戸版教育改革も、市場主義の部分が色濃く出ていると思います。一つは競争に追い立てて、行政は公教育をすすめる責任を放棄して、教育予算を削り、自己責任で保護者が負っていく。金のある家はいいけど、金のない家は知らんと、そういう形になりつつある。学校選択制はその代表的なもの。

\* **学校選択制** 市内の小中学校で導入されて今年2年目ですが、特に中学校でより傾向が現れている。部活動の強い学校、「 」つきの学力の高い学校、当初予想したよりないかと思いますが、落ち着いているか荒れているかという学校の雰囲気。そういったことで、小学校よりも中学校のほうが学校選択制の影響は強く出ていると思う。たとえば、部活もそこそこがんばっているし、「安心」して子どもを学校へ行かせることができる伝統校が人気が高い。一番生徒が集まってきているのがT中学校。ここ2年間、毎年学年1クラスずつ増えてきています。給食の配膳で並んだ最後尾の子が給食を受け取って「さあ食べよう」という時には、もうお昼が終わるチャイムが鳴ってしまう。後片付けをすると、休憩の時間もなくなるともう5時間目が始まるということになってしまいます。場合によっては、教師が「早く片付けなさい。早く片付けないと5時間目が始まってしまおうよ」と生徒を急がせなければならないこともある。そういう状況になっています。学区外から来る生徒も1クラスずつ増えているということで、困るのは家庭訪問。最近は、授業時数の確保という名目もありますが、家庭訪問が4月・5月に行われずに、夏休みにやるという学校も増えています。

選択制というのは、親のほうも部活が強い学校、「学力」が高い学校を選ぶという傾向も年々強くなっていくわけですから、より高いサービスをしてくれる学校を選ぶという形になってくる。学校のほうもいかにサービスを良くして子どもたちに来てもらうかという形になってきます。でも、選んだあとは自己責任。職員室の中でチラッと聞こえるのは、「文句があるなら、他の学校に行けばいい」という声。選択制というのは、地域

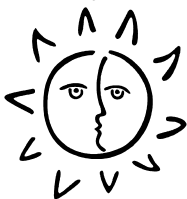
で親と教職員と一緒に学校を作っていくというのが難しくなっている。今地域で親同士が繋がっていくということが薄いですね。だから何かあると、直 校長や教育委員会へ行ってしまって、先生と相談しながら子どもに一番いい方法を探っていこうというのではなく、一方的にワートと言って、対話にならない。親同士で相談してというクッションになる部分が全然ない。そういう状況に選択制が拍車をかけ、学校をみんなで作っていくということになりにくくなっている。それに学校統廃合がかぶさっていく。

**\* 学校統廃合** 今年度古ヶ崎南小、新松戸北小、根木内東小が廃校になり、小金中学校は3年生のみ残り、来年度は休校状態に。松戸市が15億円出すというパイロットスクールの問題が今出てきていますが。(一方では教育予算がどんどん削られていて、消耗品費が去年に比べて1000万円少ない。わら半紙も十分に買えない状況。)

根木内東小の場合は、ほとんど全ての子どもたちが根木内小に移りましたから、根木内小は今25学級になっています。松戸市が適正規模として打ち出しているのが12~24学級ですから、松戸市自身が打ち出している適正規模を既に超えています。あれだけ騒がれた時に、市教委が出した予測の児童数は780名。これに対して現実には850名の児童数になっています。小金原地域協議会が予測した児童数は846名というもので、ほぼ実数を捉えていました。こういったところからも市教委の計画のずさんさが見えてきます。空き教室がなくなって、少人数授業は一つの教室をカーテンで仕切って行っているような状況です。今、文科省は少人数学級を検討しなければいけないとしていますが、そうなった時にはいったいどうするのか。また根木内東小に戻るのか。市議会での説明では、「少人数学級になっても大丈夫。充分対応できる」としていますが。(市教委は「統廃合によって教育条件が悪化したということは一切ない」と言い切っています)

**\* 市費事務職員の引き上げ** 松戸市の行財政改革の一環として、市費事務職員の引き上げ問題がありました。松戸市の各小中学校には、事務職員がこれまで2名置かれていました。県職と市職と。千葉県他市ではほとんど市職の事務職員が置かれていません。置かれていてもパート。松戸はこれについては良い状況だったんです。今年度から市費の事務職員が引き上げて、パート化していくという方針が打ち出されました。今年小学校の半分、来年度で全ての小学校、中学校が半分、そして再来年度には全ての中学校から引き上げます。パート化するということは、複雑な仕事を覚えるというところでは、当人もきついだろうし、それを補うという点で教頭はじめ他の職員の負担が増えてくる。これだけ不審者が増えている状況の中で、学校の玄関である事務室から職員が事実上減っていくということについても、私たちは警鐘を鳴らしたのですが。とにかく金がないということと、事務の効率化ということを謳って、強行されました。

事務職だけではなく、教師もパートが激増しています。今年度千葉県では約1,000人が正規採用されましたが、本当の学級数の関係に必要な教員数(定数)は当然正規教員で埋めなければいけないのですが、正規教員が足らなくて臨時職員(パート)を雇っています。その数がここ2年間(昨年・一昨年) 県全体で400人を超えていました。それが



今年度は定数内の講師(少人数授業やスタッフ派遣とか、特殊学級の補助教員という講師ではなく、学級担任などになる講師)が788人です。県教委は、「学級増と退職者の数を見通せなかった」ということを理由としてあげていましたが。それにしても800人近い人たちが、本来正規教員として新しく歩み出せた若者たちがパートという不安定な身分・過

酷な労働条件の下で、働かされなくてはならないという事実があります。正教員とパートでは掛かる人件費がまったく違いますから、予算的なものが根底にあると思います。このように教員の世界でも講師がどんどん増えてきています。講師には、時間講師であるというように、いろんなパターンがありますから、教師同士の打ち合わせや子どもの状況の確認ができにくくなる。みんなで力を合わせて子どもたちの教育にあたるということができにくい職場、分散的な職場にさせられてきています。

このように、「選択の自由」「効率化」等の名の下に、学校・教師・子ども・父母を分散化させ、個々を競争させて、自己責任に追い込み、そのことによって行政は教育予算を大幅に削って、その責任を放棄していくということを着々と進めています。これは松戸市だけではなく全国的なレベルで進められていることです。これらと両輪で進んでいるのが管理強化です。

## (2) 「教職員の新しい評価制度」の導入

その管理強化の代表的なものが、今年度から千葉県でも実施された教職員の新しい人事評価制度というのがあります。これは 2000 年から東京都で実施され、その東京都に続けということで全国的に広がっているものです。千葉県はその東京都の制度をまったく真似て今年から導入しました。

一つは目標申告制といって、教員が校長のアドバイスを受けて自分の学級作りや教科などについての目標を設定します。そして その目標にそってどれだけやったかという自己評価をして、それを校長が面接などをしながら見ていくというものです。行政側が言うには、これが曖昧な目標では達成できたかどうかわからないから、たとえば不登校の数を半分に減らしたとか、平均点を何点以上にするとか、数値で目標を設定させるといようなことが出てきます。まだ松戸などでは良心的な校長も多く、数値目標は如何なものかということで、組合の運動もあり、数値目標は書かないようにしていこうということをやっています。

大阪では、行政がそういう数値目標を設定させてやったので、不登校の子どもの家に地域の人が訪問するというのを制度的にやっている。でも、こういうことは子どもや家族にとってはプレッシャーにこそなれ、それによって励まされて学校に行くというのものではない。今大きな反発が起きているといえます。

また、数値目標を設定すれば当然結果主義になります。教育の結果というのとはとりくみの後についてくるもの。過程こそが大事なのです。その過程でどういう働きかけがあり、子ども同士のどういつながりがあり、その中で人とのかかわりとか自立するとかが育ってくる。結果が第一になれば、その過程で子どもたちに起きるさまざまなトラブルを時間をかけてみんなで話し合うというようなことが邪魔になってしまう。とにかく結果を出せということで、教育の本質が歪められてしまいます。

もう一つ業績評価制度というのがこの後に来るといわれています。業績を S・A・B・C・D の 5 段階で評価します。これは校長が職員を評価するのですが、C や D になった人は昇給が延伸される。S や A に評価された人は昇給が早くなる。「頑張れば給料も上がる。評価も高くなる」ということでこれを歓迎する若い人たちもいるようですが、それはまやかしです。今、給与構造の見直しも人事院で準備されているのですが、人件費の枠そのものは着実に狭めていくのです。全体の枠は縮めておいて、その中で人參をばら下げて「評価の高いものは給料を上げてやるぞ」というまやかしです。そういうことで

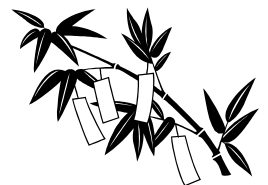
「教員の能力開発、人材育成」「学校組織の活性化」「信頼される学校」がねらいで、評価制度を導入するといっています。業績評価については反発も強いので、ちょっと足踏み状態ですが、人事院の給与構造の見直しとつなげて必ず出てくる問題だと思います。

そうするとどうなるか。民間企業の職場も同じだと思いますが、特に学校というのは教師個々のとりくみでは子どもは育たない。学校全体、学年全体で教師が力を合わせなければ教育力を発揮できない。そこが個々の評価をすることで教職員がバラバラになってしまう。民間だって、自分が長年かけて培ってきた技を若い者に伝えることによって、若い者がどんどん伸びてくれば、自分が脇に追いやられてしまうということで、そういう技術が若い人に伝わらなくなっているという問題があるということを知っています。ベテランの先生は重ねてきた経験を若い人に伝え、若い人はただいるだけで子どもがよってくるという若さの魅力もあるし体力もある。若い先生・中堅の先生・ベテランの先生が、それぞれの力・持ち味を出しながら、教師集団全体で一つの大きな力になる。それが、年配の先生は動かないからダメ、若い先生は未熟だからダメと個々に評価されたら力が発揮できない。

また、教職員相互がいつも監視されているようなピリピリとした雰囲気職場になってしまいます。ある中学校の先生は、「今、管理職からはもちろんのこと、まわりの先生からもいつも見張られているような雰囲気がある。自分が何か失敗していないかと気にしていないような感じで、緊張する。とても、教師みんなで協力して子どもたちを育てていく雰囲気ではなく、とにかくミスがないように緊張する毎日。教育の喜びや楽しさは感じられなくなって、いつ教師をやめてもいいと思うことが多々ある」と苦悩している。教師が教育に対する喜びを感じられない制度になってきているというのは、一番深刻な問題。昨年度末 千葉県の新卒者は小中学校で 818 名。このうち 60 才の定年退職者は 284 名に過ぎない。534 名は若年退職者。身体を壊したり、家庭の事情があったりする方もいるけれど、今言ったような形でやめている人も多い。50 代中盤前後の方が多。子どもが好きだから、子どもと一緒にすごしたいから、教師になったのに、その子どもと向き合えなかったら教師をやっているてもしょうがないですね。希望を持って教師になったけど、1 年持たずにやめるという人も多い。教師になったら子どもとワイワイ楽しくやれるのではないかと思っていたのに、研修・研修・研修…。広島県では今年 88% が若年退職者だったそうです。これはすさまじい状況です。教師が教師をやっていることが広がっているということです。

「日の丸」「君が代」の強制は東京都が激しいですが、全体的に広まっています。ある先生の家では、今年の卒業式を間近にして、担任の先生から電話が掛かってきたそうです。「お宅のお子さん“国歌”を歌わないのですがどうということでしょうか」と。そういうことを平気でやる教師も出てきている。

管理が強まってくれば、教師がそれぞれ自由に創意あふれる実践というのが、自分たちで工夫して授業をやったり、学級づくりをしたりというのが、できなくなってくる。学習指導要領にのっとっていかにかきちんとやっているかで評価しますから、自分たちで研究してやっても、評価がどんどん下がってしまう。学校を離れて子どもと一緒に何かをやるということもやりにくくなってしま。学校を離れて地域に出て、親と懇談会をやったり、いろいろ運動したりというのも、制約がある中でやりにくくなっている。教師自身も、日常的に親とながっていないという弱さもある。となれば、子どもたちにとっても自由に楽しく、安心して生活・学習できる学校ではなくなっていく



るということです。私たちにとって教育の楽しみを見出せない学校では、子どもたちにとって楽しい学校であるはずがありません。

## 2. 学校で、地域でつながる

今、教師同士だけではなく、親同士もバラバラにさせられている。学校の中で子ども同士もバラバラにさせられる教育になっている。能力別授業のように、お互いに知恵を出し合いながら共に育ち、共に学びあう教育ではなくなっている。そういう中で、私たちは、つながっていく、集まっていくということが本当に大事なのではないかと思います。そこで対話の輪を広げていくことが必要なのだと思います。今、なかなか人が集まらないという状況がありますが、たとえ細々とでも 粘り強く続けて、対話の輪を広げていくということが、これから大きな教育の運動を広げていくために重要だと思います。その中で、子どもたちや今の実態を出し合い、悩みを出し合う中で、子どもたちの成長のためには何が大切なのかを、道理・本筋を明らかにしていくことで、今の政策の問題性も明らかになっていくし、私たちの進むべき道もはっきりしてくるのではないかと思います。

---

### 【フリートーク】

- ▶ 私は、学校選択制の悪影響は大きいと思う。地域が壊れる。親同士も連帯などできないし、子どもたちもできない。その結果大きな学校と小さな学校が出てきてしまう。先生や親から選択制を問題視する意見は出てこないのでしょうか。
- ▶ 教師の中ではブツブツと聞かれます。日々の実践の中で様々な矛盾が出てきますから。教師の側にも考えてもらわなければなぁと思う部分もあります。
- ▶ 子どもにとってやはり小学校区くらいの広さが生活圏なのではないか。小学校で地域学習をしますよね。自分が住んでいる町から学習が始まりますね。矢切小なら矢切の地域の歴史や文化・生活の状況についての学習をし、そこから松戸市、千葉県と広がっていくはずです。選択制で違う学区へ行ったら、その一番初めの学習ができなくなるのではないですか。一番身近な所が抜けてしまう。
- ▶ 廃校になった学校の跡地はどうなってしまうのでしょうか？
- ▶ 市議会で答弁していましたが、跡地利用についての検討委員会ができるようですよ。
- ▶ 誰もいない学校というのは防犯上からも不安です。
- ▶ 市教委は、統廃合は財政上の理由から行うのではなく、限られた教育資源を有効に使い、より中身の濃い教育をするために行うと言っていましたが、学校を廃校にして削ったお金で今度小金中に作るパイロットスクールに注ぎ込むということでしょうか。松戸市全体の教育予算の総額は減っていないと盛んに主張していましたがよね。お金をかけるところと、かけないところの差が激しくなって、トップレベルの教育をする学校を作るために、他の学校がないがしろにされるのでしょうか。パイロットスクールについての保護者説明会は既に一回行われていて、英語を週に5時間やるとか、最先端の科学や技術に触れる授業をするとか、特別なカリキュラムを組んだ学校をつくらうとしている。
- ▶ 金が作地域に作ろうとしている小・中一環校はどうなっているのでしょうか。プランでは、今年4月からその研究を開始するということになっていましたが、実際に開始されたのでしょうか。

### **スタッフ派遣は？**

- ▶ 少人数授業、ティームティーチング、習熟度別授業、小学校での教科担任制授業での支援などでスタッフ派遣が行われています。実際には、ADHDなどの軽度発達障害の子どもたちが普通学級で過ごすための支援で派遣される場合もある。スタッフ派遣を市教委は教育改革の目玉として昨年から実施していますが、年度始めに年間を通して配置されるわけではないので、計画的な教育活動をしていく上での仲間の一人には、なかなかなりえない。お手伝いの範囲からなかなかでない。
- ▶ うちの学校では、養護の先生が年度始めに来て、この11月には転出するという。その後養護の先生は不在になる。養護の先生も正規の先生ではないのか。どういうことになっているのか良くわからないが、最近養護の先生が2・3年続けているということがない。継続して子どもの成長を見るということができませんよね。

### **パイロットスクールの総予算が17億2000万円！**

- ▶ 教育予算をいろいろなところで削る一方、小金中に作るパイロットスクールの総予算が17億2000万円。国から2億3000万円が補助され、残りは松戸市が起債も含めて負担するんだそうです。松戸市が負担するのが約15億円。耳を疑ってしまいます。古い1号校舎を解体して、3階建ての校舎にする。そこに地域に開かれた図書館や特別教室を作ること。
- ▶ 腹が立ちますね。
- ▶ 基本方針の確定と地域・議会への説明を経て、事業計画の確定。基本実施計画と解体工事までを今年度中に行う。本体工事に2年かけて、2007年4月新小金中がスタートというスケジュールになっているようです。

### **少人数学級は？**

- ▶ 今、小学校1・2年と、中学校1年が38人学級。今年度中学校1年の38人学級が実施されたのですが、それに伴う予算はまったくついていません。38人学級になったらその分教員の数がりますが、お金がつかないということは、現状の教師数でまかなえということなんです。だから副担任が一人減るとか...
- ▶ そんなことでは、一人ひとりを大事にするような教育はとてできないですね。

### **パートになったら、ある一部分だけ請け負えばよいことになってしまう**

- ▶ 民間の会社でも、正社員がほんの一握りしかなくて、後は契約社員・派遣社員やパートという状況になっているけれど、学校もどんどんそうなるのでしょうか。そのうち管理職だけ正規職員で、他の先生はみんなパートになってしまうということにならないともいえない。
- ▶ 全体を把握しながら、共に協力して教育活動を行っていくものなのに、パート・パートになったら、分業化されて、ある一部分だけ請け負えばよいことになってしまう。全体を知らなくていい。
- ▶ 「ゾーン制」もほとんど進んでいないし、「特別支援教育」もまだまだこれから。教育改革で既に実施された施策についての検証と、これから検討・導入しようとしている施策の問題を明らかにしていく作業を今後もやっていかななくてはなりませんね。
- ▶ 松P研としても、教育委員会の説明を今後も引き続き求めていきたいですね。